COLUMN

That's so American!!

ノースカロライナ州から
さまざまな医療にまつわる出来事を紹介

第24回 診療録作成支援 AI の普及
～医師の業務軽減化～

ノースカロライナ州メディケア・カウンセラー
アメリカ病院経営士会認定病院経営士　薬剤師（日本）　河野圭子

最近、アメリカの大手医療機関では、診療録作成支援 AI の導入が急速に進んでいます。今回は、この診療録作成支援 AI についてご紹介します。

Abridge 社（abridge.com）の診療録作成支援 AI

現在、メイヨー・クリニックやジョンズホプキンズなど全米の大手150医療機関が Abridge 社の診療録作成支援 AI を導入し、年間5,000万件以上の診療録処理が見込まれています。ノースカロライナ州でも、今年から大手医療グループのデューク・ヘルス UNC ヘルスが、医療 AI の導入を本格化させています。

診療録（カルテ）作成支援 AI は、医師が患者さんの同意を得て、診察中の患者との会話をスマホで録音し**（図表）**、その情報を基にして診療録を作成します。医師は、作成後の診療録を見直して編集します。診療録作成支援 AI により、医師は音声入力やタイピングの手間を省け、診療録作成の負担が軽くなり、患者さんとの診療時間の質も向上します。

医師の燃え尽き症候群を軽減

アメリカ医師会による調査では、50%以上の医師が仕事において多大なストレスを感じており、その原因として12%以上が「過剰な事務作業」を挙げています。そこで、診療録作成支援 AI を活用することで、医師の文書作成にかかる時間を削減し、燃え尽き症候群を軽減させることが期待されています。こうした背景から、診療録作成支援 AI を導入する医療グループが増加しているのです。

医療現場に普及させるには？

診療録作成支援 AI を現場に普及させるためには、一斉に切り替えるのではなく、従来の方法も併用しながら徐々に導入を進める段階的なアプローチが取られています。

図表　診療録作成支援 AI に利用される会話の録音

abridge.com/customers のビデオより

例えば、イェール・ニューヘイブン・ヘルス・システムでは、約3,000人の医師のうち800人がすでに診療録作成支援 AI を利用しています。その使いやすさが医師の間で認識され、来年には導入数が倍増することが期待されています。

今後の動き

医療機関は、診療録作成だけでなく、病室内でのバイタルチェックなどを支援する看護業務支援 AI の導入も進めています。また、診察中にリアルタイムで診療報酬コードを確認・記録する事務支援 AI や請求処理、監査対応等の事務業務全般を支援する AI の開発も始まっています。

医療機関は、医療支援 AI の活用を戦略計画や予算に組み入れ始めています。AI の本格的な導入が進む一方で、サイバー攻撃への対策やファクトチェックの重要性も高まっています。Ⓜ

医事047（再校）410_2023.indd　47　2025/07/28　16:44:54